

第 2 0 8 回 都市懇サロン レポ ー ト		『雨と緑を活用したグリーンインフラ』	
講 師	東邦レオ(株) 緑化関連事業部 部長 日置 大輔 氏	開 催 日	平成 2 9 年 2 月 1 4 日 (火) 18 : 00 ~ 20 : 00
講 師 プロフィール	2004 年 東邦レオ(株)入社 緑化関連事業部に配属 主に首都圏における屋上緑化、壁面緑 化、校庭芝生化等の都市緑化分野におい て、年間 100 件を超える案件に関わる。 2012 年 東京事務所所長 2013 年～ 現職 東邦レオ(株)は緑化資材メーカ、専門工事 業、サービス業等さまざまな事業を展開		
お話の概要	<p>※自然の力を活用した新しいインフラ整備の概念『グリーンインフラ』が国土交通省の国土利用計画、国土形成計画、第 4 次社会資本整備重点計画に盛り込まれた。環境問題だけでなく、防災・減災などの効果が期待されている。 (東邦レオ(株)の URL https://www.toho-leo.co.jp/)</p> <p>1. グリーンインフラとは ⇒ 自然が持つ多様な機能を活用し、持続可能な社会と経済の発展に寄与するインフラ。防災・減災、水循環、気候変動対策、健康・福祉、生物多様性、地域の魅力向上など。</p> <p>2. 雨水対策の必要性 ⇒ 地球規模で拡大する異常気象、国内でも局地的大雨等が頻発している。一因として都市化による水循環の変化が考えられており、治水から利水へと雨水対策の考え方が変化している。</p> <p>3. 世界で広がるグリーンインフラの取り組み ⇒ ポートランド (浸透性街路空間、タナースプリングパーク)、ニューヨーク (合流式下水道のオーバーフローをレインガーデンにより浸透)、フィラデルフィア (シューメーカーグリーン (広場)) における取り組みを紹介。グリーンインフラによるコストパフォーマンス評価されており、首長や市政において、グリーンインフラの明確な方向性が示されている。</p> <p>4. 日本でグリーンインフラを実現する技術 ⇒ 限られた国土、制約の多い都市空間において、路床部に雨水を浸透させ、雨水を蒸発させることで冷却効果を生み出す「日本版グリーンインフラ」の取り組みが進められる。グランモール公園 (横浜市) 等の事例を通して、新開発の雨水貯留浸透基盤材の効果を紹介。</p> <p>5. 実際の設計に活かすために ⇒ 雨水貯留浸透基盤材を利用したグリーンインフラの可能性を紹介。</p>		
	意見交換の概要	<p>※出席者の質疑・意見をもとに講師の見解等を示す形式で行われた。要旨は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雨水貯留浸透基盤材・用法について ⇒コンクリート再生砕石に腐植 (1~2mm のコーティング) を施しており、路床材を想定している。防災調整池での利用も可能だが、浸透能力による容量緩和は自治体の考えによる。 ●コストについて ⇒事例は税金を投入して整備されている。下水道整備に必要な費用を雨水浸透施設の整備に転じるなど、環境不動産投資へのインセンティブ付与が必要。 ●供給エリアについて ⇒関東、東海、関西エリアで展開。工場からの運搬距離により価格が異なる。 ●耐久性について ⇒経年使用による“目詰まり”が懸念されるが、80 年の加速試験の結果、樹木の根の進展を考慮しても空隙率 40%を維持できる結果が得られている。 ●雨水貯留浸透基盤材の可能性について ⇒“涼しさ”の創出により“賑わい”を創出したいとのこと。真夏の都市空間において“涼しさ”を求めて人が集うことは考えられる。定量評価できない“居心地の良さ”を意図して創出できるか。 	
記 録 者 の ひ と こ と	<p>欧米で取り組みが進められている『グリーンインフラ』の事例 (雨水浸透貯留) の紹介を通じて、その効果と可能性 (不動産価値の向上) に関する話題が特に興味深く感じた。 ≪都市懇サロン運営部会 委員 今井 重行≫</p>		